

今年の夏場は以下の感染症にご注意下さい

症状がみられたら、早めに医療機関を受診しましょう



腸管出血性大腸菌感染症（O157感染症など）

- 原因：大腸菌O157、O26、O111等
- 潜伏期間：平均3～5日
- 症状：感染源は患者の糞便、汚染された食品です。下痢、発熱、腹痛、血便などがみられ、溶血性尿毒症症候群(HUS)や意識障害等の重篤な症状となることもあります。
- 予防対策：トイレの後や、調理・食事の前には必ずせっけんで手を洗ってください。食肉やレバー等の内臓は十分に加熱(中心温度が75℃、1分以上)して食べましょう。

RSウイルス

- 原因：RSウイルス
- 潜伏期間：平均4～5日
- 症状：鼻水、咳、発熱などの症状がでます。多くは2日から1週間ほどで治癒します。しかし、新生児がRSウイルスに感染すると、重症の急性細気管支炎を起こし、呼吸困難に陥る可能性があります。
- 予防対策：咳エチケットと手洗いをしましょう。他の人とのタオル・ハンカチの貸し借りはさけてください。

ヘルパンギーナ

- 原因：コクサッキーAウイルスなど
- 潜伏期間：平均2～4日
- 症状：突然の高熱、のどの痛みが現れ、口の中に小さな水ぶくれができ、ただれて痛みをとまいません。高熱は38～40℃で1～3日続き、食欲不振、だるさなどの症状がみられます。
- 予防対策：咳エチケットと手洗いをしましょう。他の人とのタオル・ハンカチの貸し借りはさけてください。おむつの交換など便を扱った後は、特に、しっかり手洗いを行ってください。

手足口病

- 原因：コクサッキーAウイルスなど
- 潜伏期間：平均3～4日
- 症状：手・足・口の中に水疱(すいほう)性の発しんができ、時にかゆみ、発熱をとまなう場合もあります。ごくまれに髄膜炎(ずいまくえん)や心筋炎などを生じることがあるがあります。
- 予防対策：咳エチケットと手洗いをしましょう。他の人とのタオル・ハンカチの貸し借りはさけてください。